

Title	読解授業からの脱却ードイツ語プレゼンテーションに挑戦ー
Author(s)	大前, 智美
Citation	PCカンファレンス論文集. 2022, 2022, p. 235-236
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/101076
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

読解授業からの脱却 —ドイツ語プレゼンテーションに挑戦—

大前智美^{*1}

Email: omae.tomomi.cmc@osaka-u.ac.jp

*1: 大阪大学サイバーメディアセンター

©Key Words

外国語教育, ICT 活用授業実践, プレゼンテーション, 動画撮影

1. はじめに

大学における初習外国語の授業は、コミュニケーションクラスを除き、1年目に初級文法を一通り学習し、2年目には中級に向けての読解授業を行うことが多い。筆者も2年目のドイツ語授業を担当することになり、読解中心の教科書を選定した。しかし、ドイツ語を読んで日本語に訳すという本来求めているはずの学習過程を、Google翻訳をはじめとする翻訳アプリに任せ、実際にはドイツ語を読解できていない学生が多数存在することは否めない。そこで、筆者は一文一文を「訳す」授業をやめ、読解テキストから読み取った使い回しのきく表現をピックアップし、その表現や読解内容をアレンジして、自分の言葉としてドイツ語を話すことを目標とする授業に転換した。

自分達でプレゼンテーション用のシナリオを作成する際、教科書から得たドイツ語表現に加え、最終的にはクラス内でプレゼンテーションをする。そしてそれを相互評価することで、ただ読んで訳す学習ではなく、「言いたいことを言える」ようになる外国語学習を実施した。プレゼンテーションやビデオ撮影をすることで、人に聞いてもらえるドイツ語、「通じる」ドイツ語を話す意識を高め、外国語の発話への抵抗感をなくし、読解授業では得られない学習体験を行なった。本稿では、2年目のドイツ語学習者がドイツ語でプレゼンテーションができるまでの過程を報告するとともに、使用したツールの紹介や学生の評価、今後の展開について記述する。

2. 授業概要

2.1 クラス

第2外国語としてドイツ語を履修する2年目の学習者約35名ずつのクラス2クラスでドイツ語プレゼンテーション授業を実施した。本クラスでは、1年次に習得したドイツ語技能を発展させ、知識の定着、表現力の育成、読解力の養成を図ることを目的とする。教科書は「知りたいドイツ語～読みながらステップアップ」を採用し、文法の確認と練習問題を行い、読解文章を発展させたプレゼンテーションを行なった。

2.2 授業構成

本クラスの授業構成は以下のとおりであった。

- ① 上記の教科書にある文法確認により、初級文法からの応用問題を解きながら、文法事項の確認を行う。
- ② 読解テキストの音声聞き取り、「理解度チェック」を行う。この時点でドイツ語を聞いて、どの程度理

解できるかの確認を実施する。

- ③ 理解度チェックの内容を、本文のどこを根拠に判断したのかを確認する。
- ④ 本文から覚えて、プレゼンテーションで使用したい表現の解説を行う。
- ⑤ レッスンごとに、その内容を発展させたプレゼンテーション準備をする。(ドイツ語のシナリオ作成とPowerPointなどの資料の作成)
- ⑥ プレゼンテーションを行い、クラス内で相互評価を行う。

この①～⑥の流れを5回の授業1クールとして実施し、半期につき3回のドイツ語プレゼンテーションを行なった。

2.3 使用したツール

教科書、辞書の他に、以下のようなツールを使用してプレゼンテーション準備を行なった。

・Tatoeba: さまざまな言語の例文とその翻訳からなる大規模データベース。使用したい単語が文の中でどのように使われるのかを例文で見るためのツールであり、一部は例文に音声もついており、発音の確認も可能である。

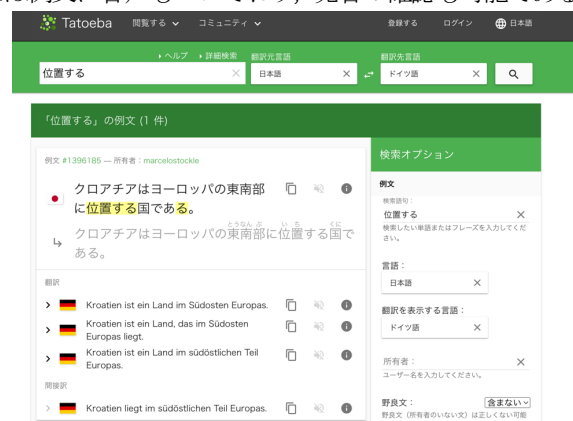


図1 Tatoebaでの例文検索

・ttsMP3.com: 作成したドイツ語シナリオの音声を入力し、音声ファイルを作成する。

・ロイロノート・スクール: 作成した合成音声の聞き取り練習を実施した。作成した音声はスピードが速く聞き取りが難しいため、ロイロノートに読み込み、スピードコントロールをしながら、自分達の発話したいドイツ語の音声を確認する。

・Microsoft Word: イマーシブリーダーの機能を使い、ドイツ語シナリオを読み上げさせ、音の確認を行う。

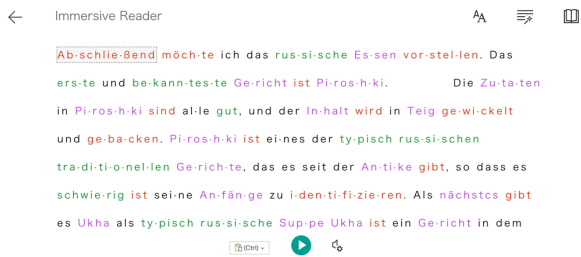


図2 Microsoft イマーシブリーダー

・Google 翻訳/DeepL：翻訳アプリのマイク入力の機能を利用し、作成したシナリオを音声入力する。自分の発音したドイツ語が翻訳アプリに聞き取ってもらえるかどうかによって、「通じる」発音にまで練習できているかの確認を行う。同時に、入力したドイツ語を日本語に翻訳させ、自分の作ったドイツ語が自分の言いたい内容に合っているかの確認を実施する。

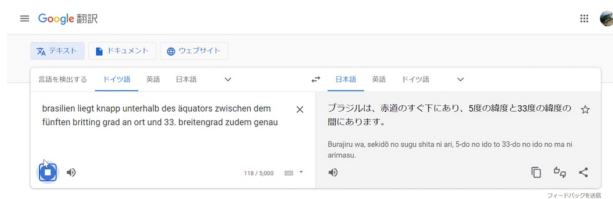


図3 Google 翻訳へ音声入力

・padlet：グループごとに資料の共有やスクリプトの共有を行う。Padlet にアップされた学生のスクリプトチェックを教員が行い、コメントを返すなど、クラス全体の掲示板的な役割をする。



図4 padlet での情報共有

3. プレゼンテーションとビデオ撮影

3.1 プレゼンテーション

2.2に記載した手順と2.3に紹介したツール類を用いて、自分達のプレゼンテーションの内容を、ドイツ語にして全員の前で発表を行なった。また、クラス内で Google Form を用いた簡易な相互評価を行なった。

Kolochの評價

話の内容はまとまっていますか？

1 2 3 4 5

まとまっていなかった ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ とてもよくまとまっていた

ドイツ語の発音は練習の成果が見られましたか？

1 2 3 4 5

練習が足りない ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ よく練習ができていた

プレゼン全体を通して、コメントを書いてください。

回答を入力

図5 相互評価

3.2 ビデオ撮影と編集

プレゼンテーションに慣れてきたタイミングで、グループごとにビデオ撮影と編集を行い、完成した作品を相互評価することにした。手順は2.2を基本として、自分達で作成したスクリプトを自分の言葉として話す姿、また紹介したいものを動画に組み込んで、字幕をつけたビデオを完成させた。



図6 ビデオ作品

4. おわりに

本稿は、ドイツ語学習2年目の授業を、単調な読解授業にせず、学生が主体的に学び、学習したドイツ語を「使う」ことに着目した授業の実践報告である。授業後のアンケートによると、様々なツールを使うことで、戸惑うこともあったが、ドイツ語学習を通して、プレゼンテーションの技能アップとICTスキルの向上ができたことに対するポジティブな意見が多くみられた。また、「自分で文章を書いて発音を覚え、スライドを作るという工程が大変だったが、終わった後の達成感が大きかった。」「伝わりやすい文章を作ることが難しかった。しかし、学んだドイツ語の知識を発表という形で実践に生かすことが出来たのは良かった。」など難しいながらも実践的な外国語学習に高い評価をしている。今後は、より詳細に学習効果の検証を続けていく予定である。

参考文献

- (1) 岩居弘樹：“学びの成果をビデオに残す試み”，サイバーメディアフォーラム2020，大阪大学サイバーメディアセンター（2019）。
- (2) 大前智美，渡邊ゆきこ：“音声認識機能を使った自律型発音学習”，2020 PC Conference 論文集，コンピュータ利用教育学会（2020）。
- (3) 斎藤太郎，Siegfried Kohlhammer：“知りたいドイツ語～読みながらステップアップ～”，朝日出版(2018)
- (4) 渡邊ゆきこ，大前智美：“発話を促す多言語教材の開発”，2018 PC Conference 論文集，コンピュータ利用教育学会（2018）。

参考 URL

- (1) Tatoeba：https://tatoeba.org/ja
- (2) ttsMP3：https://ttsmp3.com/
- (3) padlet：https://padlet.com/